

平成28年 第4回定例会（第1日11月25日）

〔質疑〕 沖本

議長のご指名をいただきましたので、ざま大志会を代表し、総括質疑を行う前に、私ごとになりますが、これまで副議長、議長、監査委員という役職に続けてつかさせていただいたこともあり、今回、私が総括質疑を行うのは、実に2,191日、5年と11カ月の30日ぶりとなります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

また、総括質疑ですので、自己、あるいは党派としての意見を述べることなく、そして、それぞれの事業や条例についての細かい部分は、後の委員会審査で行うこととし、大綱的な質疑を行ってまいります。

それでは、質疑に入ります。

質疑は、今定例会に上程されております諸議案について、当局として、政策的、戦略的取り組み、あるいは鋭意努力されたことについてのみ伺ってまいります。

例えば、議案第94号、平成28年度座間市一般会計補正予算（第5号）の歳入の款国庫支出金、項国庫補助金、目土木費国庫補助金の社会資本整備総合交付金（市街地整備分野・都市計画課）、小田急相模原駅前西地区市街地再開発事業は、当初予算では、建設事業補助金として1億2,840万円を予定されていましたが、この交付金の内示額が9,526万5,000円であり、不足分に対し、積極的に国、県に追加の要望を行ったところ、本年10月に前倒し予算として7,880万円の追加交付の内定を受け、本年度の交付金が総額で1億7,406万5,000円となったことから、4,566万5,000円を増額されております。また、目教育費国庫補助金、小学校施設環境改善交付金6,988万9,000円増額については、新たに相武台東小学校法面保護工事として2,679万8,000円、入谷小学校北棟便所改修工事費として2,452万7,000円並びに中原小学校北棟便所改修工事として1,856万4,000円を国の追加補正により、国庫財源の内定が得られたことにより、平成29年度予定していた事業を前倒しし、実施するとのことです。同じく中学校施設環境改善交付金6,758万3,000円増額についても、新たに座間中学校3号棟外壁改修工事として1,447万9,000円、東中学校金工・木工室外壁及び屋上防水改修工事として1,078万3,000円及び南中学校便所改修工事として4,232万1,000円を国の追加補正により、国庫財源の内定が得られたことにより、平成29年度予定していた事業を前倒しし、実施するとのことです。さらに、歳出の款土木費、項都市計画費、目都市計画総務費のコミュニティバス運行事業費では、コミュニティバスの運行は、より利便性を向上させるため、座間市コミュニティバス等交通体系のあり方検討会での提言を得、座間市地域公共交通会議にて見直し運行の同意を得るなど、着々と新たな運行の準備を進められ、このたび交通管理者等の各関係機関との協議が調ったことから、新たな運行開始を前倒しし、平成29年2月1日から開始するため、コミュニティバス運行委託料1,216万3,000円に諸費用を合わせた総額1,268万9,000円増額措置を提案されております。

以上のような歳入の確保、歳出における工夫など、積極的に国、県への要望や事業の前倒しをされた事例を含め、今定例会に上程されております諸議案について、当局としての政策的、そして戦略的な取り組み、あるいは鋭意努力されたこととしてはどのようなものがあるのか伺い、1回目の総括質疑とします。

〔答弁〕 都市部長

戦略的な取り組みの主なものですが、まず、小田急相模原駅前西地区市街地再開発事業でございます。補助対象事業として平成26年度に採択されており、完成予定の平成30年度末までの継続事業と

なっています。再開発事業は、国からの交付金と保留床処分金を主体として構成されており、交付金が削減されてしまいますと、再開発組合や市の負担がふえることになり、再開発事業として採算性や市の財政負担が非常に厳しい状況となります。本事業では、平成28年8月に権利変換認可を受け、既存建物の除去を行い、12月には本体の建設工事に着手することから、県のヒアリング等において、事業の進捗に合わせた交付金の追加配分を積極的に要望してまいりました。このように、県及び関係各市とともに国土交通省や関東地方整備局に対して、事業の重要性の説明や予算配分についての要望活動、要望等を行ったことなどから、本年10月に行われた国の補正により、追加内示を受けたものと考えており、この開発事業の早期完成につながるものと考えています。

次に、コミュニティバスの運行見直しの政策的、戦略的な取り組みですが、市民あり方検討会の中でのワークショップや市民のアンケート調査等での市民意見聴取を行うなど、約2年間の中で議論を積み重ね、市民の声をできるだけ多く取り入れられるよう取り組みながら、見直し運行計画を策定いたしました。また、座間市地域公共交通会議では、公共交通の専門家や国土交通省関東運輸局、神奈川県交通企画課、道路交通管理者、県、市、道路管理者など、各構成メンバーに対し、個別に詳細な事前説明を行い、円滑に会議が進行したことから、運行開始を前倒しできたものと考えております。

次に、道路関係の戦略的な取り組みですが、南東部地区総合交通対策事業の小松原交差点改修事業や市道38号線道路改良事業は、市の戦略プロジェクトとして位置づけられており、相模が丘、広野台、小松原地区の慢性的な交通渋滞の緩和の一環として交差点改良を行うもので、そのために道路交通管理者や県道管理者、地権者などに事業内容を説明し、地権者には一定のご理解を得ており、道路交通管理者である警察本部とも先日、協議が終了いたしました。特に難しかった点ですが、やはり事業用地の取得となります。小松原交差点では、関係地権者に事業内容を説明し、協力をお願いしたところ、いずれの地権者からも前向きな回答を得ておりますが、その中で、このたび、小松原交差点改良事業の一部地権者から用地協力の内諾が得られたことから、前倒しをして用地を取得したいものがございます。

また、西部地区総合交通対策事業の座間南林間線は、本市の東西の幹線道路や圏央道厚木パーキングエリアスマートインターへのアクセス道路としても大変重要なことから、同様に、市の戦略プロジェクトとして位置づけられており、現在鋭意整備に向けた用地取得等を行っていますが、入谷バイパスの東側で小田急線と交差していることから、この交差方法を、当面の間は平面交差として整備する予定となっております。しかしながら、平面交差では、踏切を原因とした慢性的な交通渋滞などが予想されることから、道路地下化による立体交差にすることで、踏切事故の減少や交通の円滑化などを進めるなど、早期に新たな整備を目指してまいります。

また、市の事業として着実に進捗はされていますが、市道38号線道路改良事業等の用地取得では、一部地権者固有の事情により、用地協力が得られていないところもがございます。今後も粘り強く用地協力をお願いし、用地取得が調った箇所から道路改良工事を行ってまいりたいと思います。

〔答弁〕 教育部長

政策的、戦略的な取り組み、あるいは鋭意努力されたことということで、学校施設環境改善交付金についてお答えしたいと思います。

教育施設の改修に関しましては、児童・生徒の安全・安心の確保と教育環境の充実を図るという観点や、さらに防災機能強化や大規模改造などにより、学校施設の長寿命化に向けた事業を積極的に推進することとして、国庫補助金の確保に向けて、本市議会からは国への意見書が議決され、提出され

ております。本市といたしましても、国に対する平成29年度の要望書、神奈川県市町村教育長会連合会からは県教育長に対し新規事項として県から国に働きかけることの要望書、神奈川県市長会からは、この事項を追記する中で、国の施策及び予算に関する提言としての要望書、全国公立学校施設整備期成会からは、文部科学大臣に平成28年度公立学校施設整備費予算に関する緊急要望書をそれぞれ提出しているところでございます。一方、国においては、一連の耐震化対策や老朽化対策、便所洋式化など、施設におけるさまざまな課題から、その推進について認識がなされたものと推測され、8月上旬の国から県を経由した国補正予算に係る平成29年度前倒し可能な事業の全国調査を経まして、補正予算を組む中で、10月に国庫補助金交付の内定をいただいたものでございます。今後も積極的に国の動向等の情報収集に努め、対象事業の必要な歳入のさらなる確保に努めてまいります。

以上でございます。